

『月刊オルタ』アジア太平洋資料センター
2001年11月号 pp. 12-13

(掲載された記事とは若干構成が違ってきます。)

経済危機を乗り越える!?

オルタナティブ・マネーの可能性

泉 留維

市民による地域通貨・RGT

アルゼンチンでは、市民と地方政府それぞれが、独自に取引の媒介となるもの、すなわち「貨幣」を発行して、危機的な経済状況を自らの手で克服しようとしています。市民が発行しているのはRGT、地方政府(ブエノスアイレス州政府)が発行しているのはパタコン(Patacon)と呼ばれています。

RGTは、“Red Global de Trueque”(グローバル交換サークル)の頭文字から来ていて、現地では最後の単語を取って「トゥルエケ」とも呼ばれています。通貨危機による経済の低迷を背景に、PAR(Programa de Autosuficiencia Regional: 地域自給プログラム)というNPOが一九九五年に始めたもので、アルゼンチンの経済状況の悪化の中で、急速に地域コミュニティに浸透し、現在では六〇万人以上の参加者がいると報道されています。

RGTは、約五〇〇の“ノード”と呼ばれる緩やかなネットワーク組織から成り立っています。RGT内で使用される紙券は“クレジット”と呼ばれており、一クレジットは一アルゼンチン・ペソに対応していますが、ペソとクレジットの交換はできません。また原則的に、RGT内でのあらゆる取引は、ペソを使用せずクレジットだけで行なわれることになっています。RGTのノードに新規加入すると、五〇クレジット分の紙券が渡されます。この紙券には様々な種類があり、加入したノードでしか使用できない紙券、全国のノードで使用できる紙券(写真)などが組み合わせて渡されます。この

クレジットで、家庭での基本的な修理サービスから始まり、農産物までありとあらゆるものを購入することができます。



RGTの全国で使用できる紙券

各ノードでは、たとえば週一回といったペースでバザーが開かれています。全国版のクレジットを使用すれば、その地域では毎日のようにどこかでバザーが行なわれているため、常時取引ができます。二〇〇一年三月にブエノスアイレス市レコレータ地区で行なわれたフリーマーケットでは、二万五〇〇〇名もの人びとが参加したと報道されています。市民の自発的な活動なので明確な規模についてはわかりませんが、ラ・ラソン紙の記事(二〇〇〇年二月二〇日)によれば、二〇〇〇年末現在で約五〇〇万クレジットもの紙券が発行され、RGTによって行なわれている取引は年間六億~八億ドル相当に達するとのことでした。最近では、アルゼンチンのRGTと同様のシステムが、ウルグアイ、ブラジル、チリ、パラグアイなどにも広がっていて、南米の行政関係者の間でも注目されています。

州内で流通する債券・パタコン

一方、パタコンは、二〇〇一年八月下旬から貨幣的に流通し始めたブエノスアイレス州の州債の名称で、パタゴニア地方にちなんで名付けられました。その紙券は、法定貨幣であるペソに非常に類似していて、一ペソ相当の額面

の紙券（写真）から始まります。ブエノスアイレス州は、アルゼンチン三七〇〇万人のうち四〇％が住んでいる最大の州で、経済不振による税収不足で財政難が深刻化した中、ラカウフ州知事が、新しい債券を印刷するように州の印刷局に命令したのです。五億ペソ相当の新しいパタコン紙幣が印刷され、一五万人以上いる公務員への給料支払いや出入り業者への支払いとしてまず使用されました。ちなみに、開始一週間で九〇〇〇万ペソ相当のパタコンが市中に出ていったそうです。このパタコンは、州債であり、二〇〇二年七月二五日に七％の利息をつけて政府が償還することになっています。



パタコンの紙券

パタコンは、月に七四〇ペソ以上の所得がある州の公務員、おおよそ全体の三〇％に対しての賃金支払いで主に市中に出ていきますが、それが使用できるのはいたる所にあります。例えば、税金の支払いや市役所の諸処の手数料、高速道路料金（全額）や鉄道料金（全額）、電話や水道などの公共料金（三〇％程度）で使えます。

また、マクドナルドでは、パタコン流通が始まるとすぐに五パタコンの「パタコンボ（Patacombo）」というセットメニューを始めました。地元の手回りスーパー・コトではパタコンでの支払いを一〇〇％受け入れていますし、多くの商店が「パタコンを受け入れます」というステッカーを店頭に掲げています。ちなみに、パタコンはブエノスアイレス州政府が発行しているものですが、ブエノスアイレス州に含まれないブエノスアイレス市（首都特別区）でも、多くの商店などでパタコンが受け入れられています。

人びとの生活を支える“お金”を

アルゼンチンは、経済の低迷や独自の通貨政策のため、生産力や労働力には余裕があっても、貨幣不足のため苦しい生活が強いられている側面があります。また、地方政府は、税収不足で財政難が深刻化し、公務員の賃金も払うことが困難になり、様々な業務に支障をきたしかけています。そこで、ペソがなくても、生活の一部を成立させるため、施策を行なうために RGT やパタコンは存在しており、お互いに支え合うことによってより良い生活を得ようとしています。このように、市民の自発的な取り組み、地方政府の追い込まれた末の政策という違いはありますが、取引の媒介としての貨幣をペソとは全く違った形で発行していく仕組みには、大きな期待がかかっていると言えるでしょう。

（いずみ・るい）